



能登半島地震でお亡くなりになられた方々のご冥福を謹んでお祈りするとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

本年は、年間通しての本格的な経済活動の再開が期待されます。一方で、物価高騰や人手不足等が深刻さを増すことが予測され、働き方改革等、これら社会課題への対応により、あらゆる組織や団体で変革が求められています。さらに、地球温暖化対策への取り組みもより一層進める必要があります。

市政運営も同様に、これまで以上に社会の変化への対応が求められています。さらなる民間活力の導入やDXの推進等、時代にあった行政サービスの提供体制への変革を進め、市民サービスの充実を目指してまいります。

本年も、よろしくお願いいたします。

山下てつや



300項目の政策要望を市長へ

昨年11月1日、町田市長に政策要望を致しました。きめ細やかな住民サービスの実現、子育て・教育・福祉の充実、防災、地球温暖化対策、DXの推進等、日頃からの市民要望に加え、諸団体の皆様との懇談を重ね、約300項目にわたる政策要望にまとめました。

神奈川中央交通へ

施設を視察

地域サポート報告



神奈川中央交通へ市内バス要望を



さがみはらバイオガスパワー(左)では、フードエコロジーセンター(右)からの食品廃棄物を活用してガス発電を



生活道路の草刈りを(山崎町)

山下てつや YAMASHITA Tetsuya

市議会公明党幹事長
公明党町田総支部 都市農業対策部長

昭和40年、東京都生まれ。青山学院大学経営学部を卒業後、新東亜交易株式会社に勤務。平成18年、町田市議会初当選。妻と2男1女の5人家族。モットーは「現場第一・対話第一」。下小山田在住。



バイオエネルギーセンターの火災問題で対応策要求

昨年11月4日、バイオエネルギーセンターで火災が発生しました。原因はごみに混入したリチウムイオン電池の発火でした。町田市では、リチウムイオン電池をごみ処分の対象ではないことを広く啓蒙し、一昨年からは行政回収を始めています。市のウェブサイトやSNSでも呼びかけていますが、そうした啓蒙に加え、高度な検知機器やごみの選定設備（ソーティングセンター）を導入して、危険性の高いものを取り除いたり、プラスチックごみを分別したりするシステムの構築を訴えました。

ごみの中には、資源として使われるものも多く、選別により有価資源として回収する機能を持つことができます。町田市には今後も粘り強くソーティングセンター導入も含め、ごみ問題解決に向けての要請を続けてまいります。



忠生スポーツ公園の魅力を高める取り組みを！

昨年9月16日、忠生スポーツ公園が開園しました。市民の憩いの場として進めるため、掲示板、防犯カメラ、電源の設置をはじめ、人気の高いバスケットリングの増設や、バス利用者のためのバス停名称の変更、ベンチの設置などを訴えました。

市も施設整備に力を入れていくと答弁しました。施設面の充実に加え、魅力を高めるための施策として地元の利活用の場として提供し、地元の関与を促す、障がい者の雇用で包括性の要素を取り込んでいく点などを訴えました。



障がい者グループホームでマッチング機能強化

町田市では障がい者グループホームの整備が進んでいますが、事業者が利用者の障がいの特性と合わない等の問題点もあります。グループホームは障がい者の「終の棲家」となるケースも多いため、希望者への情報提供や、障がい状況に合った事業者を選ぶためのマッチング機能の強化を訴えました。

また、重度障がいのある方への対応に関して、グループホームの人手不足解消のため、障害福祉サービス事業所などで構成する団体との情報共有など、取り組み強化を訴えました。



「空き家」予防に力をいれよ！

市では空き家となった家の見守りなどの件数が増えています。そこで、空き家予防の必要性を訴えました。弁護士や司法書士など関連する士業界や事業者等と連携し、空き家に活用したいという需要の把握も予防策には大事です。子ども食堂や塾の場として提供することで、持ち主の合意を得ることなど、空き家を有用なスペースとして蘇らせるための施策の要請を行いました。